

2010年3月期 決算の概要

■ 連結決算の概要

売上高：ジェネリック医薬品が21.8%の増収となり、全体では7.5%増収。

2010年3月期の連結売上高は前期比7.5%の増収となりました。ジェネリック医薬品は、DPC病院拡大に伴う需要増や保険薬局での売上伸長を背景として、同21.8%の増収となりました。

主力品は、消炎鎮痛剤(ソレトン)の競争激化による減収等が影響し、5.7%の減収となりました。

利益：営業利益32.2%増。経常利益、当期純利益共に60%以上の伸長。

ジェネリック医薬品の売上構成比増加の影響を受け原価率は若干上昇したものの、昨年より継続して取り組んできた経費適正化の効果により、営業利益は前期比32.2%の増益、経常利益、当期純利益においても同60%以上の増益となり、収益向上に向けて一步を踏み出しました。

業績予想：2011年3月期はジェネリック医薬品売上高30%増収を見込む。

政府による促進策の追い風を受けジェネリック医薬品の更なる需要拡大が見込まれることから、ジェネリック医薬品の売上高は2010年3月期比30%の増収を見込んでおります。その結果、連結売上高は同20%の増収、営業利益、経常利益、純利益いずれも同2倍以上の増益を見込んでおります。

尚、今期業績予想には日本薬品工業の完全子会社化及び当社茨城工場分社化による影響を加味しております。

■ 連結損益の概要

(百万円)

	2009年3月期		2010年3月期			2011年3月期予想	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	増減率(%)	金額	増減率(%)
売上高	22,307	100.0	23,982	100.0	7.5	28,800	20.1
医薬品事業	21,490	96.3	23,050	96.1	7.3	—	
その他事業	817	3.7	932	3.9	14.1	—	
売上原価	10,387	46.6	11,448	47.7	10.2	—	
原価率増減P				+1.1P			
販売管理費	11,339	50.8	11,767	49.1	3.8	—	
販管費率増減P				△1.7P			
営業利益	580	2.6	767	3.2	32.2	1,600	2倍
経常利益	363	1.6	587	2.4	61.4	1,400	2.4倍
当期純利益	168	0.8	270	1.1	61.0	600	2.2倍

■ 医療用医薬品の概況

(百万円)

	2009年3月期		2010年3月期			2011年3月期予想	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	増減率(%)	金額	増減率(%)
医療用医薬品(荷離)	19,266	100.0	21,416	100.0	11.2	24,940	16.5
ジェネリック医薬品	11,787	61.2	14,360	67.1	21.8	18,640	29.8
アムロジピン	915		1,838		約2倍	2,550	38.7
プラバスタチン	1,206		1,234		2.3	1,410	14.3
ボグリボース	831		1,003		20.7	1,240	23.6
ランソプラゾール	573		927		61.8	1,470	58.6
その他	8,262		9,358		13.3	11,970	27.9
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----
主力品計	7,479	38.8	7,056	32.9	△ 5.7	6,300	△ 10.7
ウラリット	3,408		3,376		△ 0.9	3,170	△ 6.1
ソレトン	3,405		3,077		△ 9.6	2,590	△ 15.8
カルバン	666		603		△ 9.5	540	△ 10.4

■ 研究開発費等

(百万円)

	2009年3月期		2010年3月期			2011年3月期予想	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	増減率(%)	金額	増減率(%)
研究開発費 (連結)	1,427	6.4	1,722	7.2	20.7	2,050	19.0
減価償却費 (連結)	580	2.6	695	2.9	19.8	750	7.9
設備投資額 (連結)	889	4.0	681	2.8	△ 23.4	690	1.3

本件に関するお問い合わせ先
 日本ケミファ株式会社 広報室
 Tel: 03- 3863- 1211

※本資料における将来の予想等に関する各数値は、現時点で入手可能な情報に基づく弊社の判断や仮定によるものであり、リスクおよび不確実性が含まれております。したがって実際の業績等は、予想数値とは異なる結果となる可能性があります。